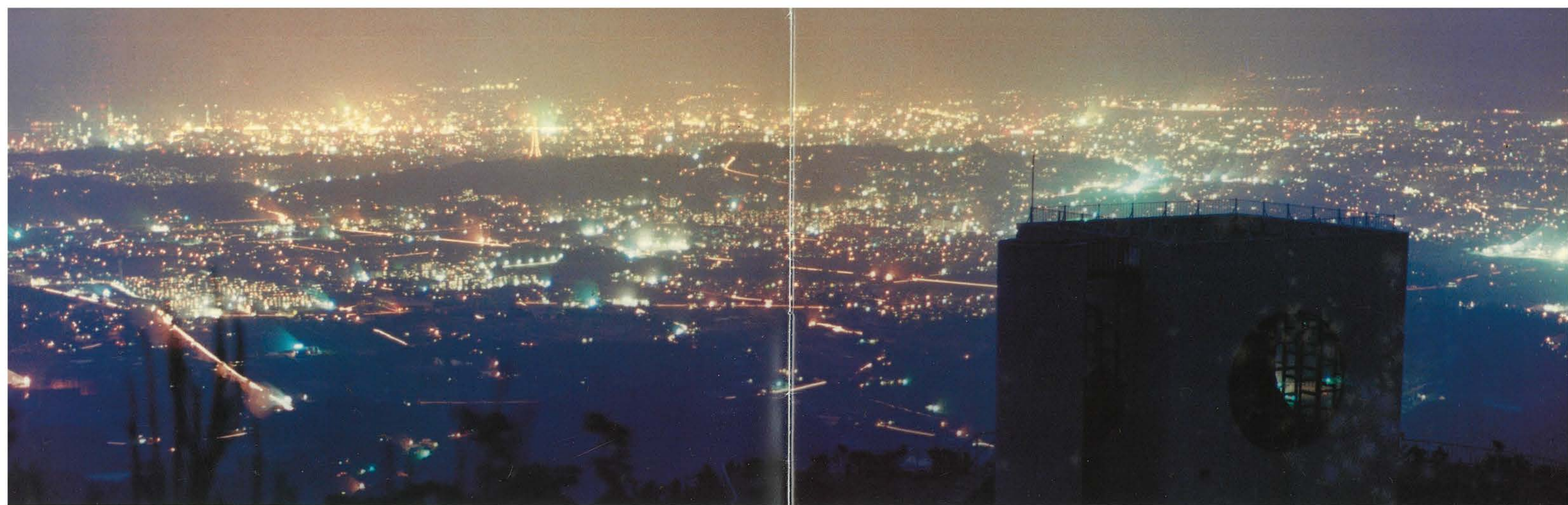


市民の森 20年のあゆみ



福岡市



中央展望台後方から福岡市街地夜景を望む



福岡市長

桑原 敬一

油山市民の森は、明治100年記念事業として昭和44年に開設されて以来、満20年を迎えることになりました。

市民の森の開設には、市民各界各層により組織された「市民の森運動本部」に特段のご高配をいただき、市民の皆さんの創意とご支援のもとにオープンいたしました。その後、運動本部の精神を引き継がれました「福岡市市民の森協会」のご協力を得まして、自然観察の森、森林浴コースなどの施設整備や樹木の植栽をすすめ、あふれる緑の森林は、四季を通じて市民の皆さんに親しまれております。

森林は水源かん養、木材の生産など多くの機能を持っておりますが、最近では、生きた緑の森林とふれあい豊かな人間性を創造する場としての重要性がますます高まっております。

平成元年は、福岡市制施行から100周年を迎える記念すべき年ではありますが、これを節目として来る21世紀へ向け、自然を生かす快適な生活の都市づくりをすすめてまいります。このため油山市民の森は、市民のレクリエーションの場としてはもとより、文化の源泉あるいは魅力ある都市の核になるよう積極的に整備を進めてまいり所存であります。

最後に、市民の森の発展にご尽力とご協力を賜りました関係者各位、並びに市民の皆さんに深く感謝いたしますとともに、今後とも末永くこの市民の森を愛し、育てていただきますようお願い申しあげる次第であります。



福岡市市民の森協会会長

山下 敏明

昭和44年に「油山市民の森」が開設されてから20年になりました。

この間、市民の皆さんのご協力により、世界の樹木園、もみじ谷等の整備を行いますとともに、市による自然観察の森、森林浴コース等の整備、拡充により、全国に誇るに足る市民の森として大きく成長することが出来たことは、誠に喜ばしいかぎりであります。

市民の森は都心に近く、緑豊かな森林と色あざやかな花木に満ちており、多くの市民の皆さんにハイキングや野外レクリエーションの場として、あるいは野鳥や昆虫等を観察する学習の場として利用されています。

また最近、生活の質が重視されるにしたがい、心身をリフレッシュする場としての役割をより多く求められています。

このような中で市民の森協会におきましても、市民の森開設以来市民の皆さんのご協力により各種記念行事を行うとともに、快適な利用のため自然教室、ハイキング教室等の事業の運営に努めているところであります。

このたび、市民の森開設20周年記念事業として「つばきの森」及び「アスレチック施設」の整備を計画いたしましたところ、趣旨にご賛同を得、各界各層のご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

今後とも、恵まれた自然を生かし、緑豊かな「市民の森」とするため、なお一層努力してまいりますので、市民各位のご協力を切にお願い申し上げます。

目次

市民の森の基本理念	3
市民の森建設の経緯	4
油山の自然と歴史	6
施設の概要	8
市民の森のあゆみ	10
市民の森協会役員名簿	12



市民の森の基本理念

市民の森は、福岡市と市民が自然を守り住みよい美しい都市づくりをすすめるため、市民のレクリエーションや青少年の教育の場として自然のままの自然を永く後世に引き継ぎ広く市民の利用に供するため、開設当初より次のような基本理念をもっています。

I 自然のままの自然

自然をそのまま放置することなく、人々が親しみをもって自然に接することができ、きれいに整備された自然と完成された理想の自然を目指しています。



II 人間性の回復

人間性をとりもどす役割をもつ保健休養林として、より多くの市民を迎え、心身をリフレッシュし明日への活力を養い人間性を回復する場所です。



III 林業の啓蒙普及

森林は豊かな水源をかん養し、土砂の流出を防ぎ、植物を育てる土をつくり、そして空気をきれいにするなど多くの公益的機能をもっています。市民の愛林思想の高揚と自然愛護の精神を育てる場所です。



IV 徒歩利用の原則

都市の騒音からのがれて、緑豊かな森林に包まれた散策路を歩くことにより、日頃の運動不足を解消し、明日のための健康と体調を整える場所です。



市民の森建設の経緯

市民の森は、明治100年を記念して市民参加のもとに建設されたユニークな自然の森です。

市民の森の建設は、昭和42年8月、市、市議会、経済界、労働団体、自治会、学界、文化団体など各界の賛同のもとに、阿部市長を会長とする「福岡明治100年記念委員会」が発足し、いろいろな記念事業の中から市民の森建設が決まりました。この年の10月には、市民の積極的な参加を得るための推進母体として、「市民の森運動本部」（本部長・森 俊雄氏）が設けられました。

運動本部では、「僕の木、私の木を植えよう・一木一樹を市民の手で」と植樹や施設などの募金活動をはじめ、シンボルマークの募集、ミス市民の森の選出、市民植樹祭など、多彩な催しで市民の関心を高めました。これには多くの人々が参加し運動を盛りあげました。

市では、市民の森建設にあたり、基本計画、実施計画の樹立、土地基盤（道路、広場、排水路、園地造成など）の整備事業を主体に推進にあたりました。

地元では、当時の福岡市森林組合

長が先鞭をきって油山の植林、林道の開設、用地の寄付などに積極的に協力され、日頃から云われていた「長尾山市有林72ヘクタールは市民のいこいの場に開放しては……」との提言が実現したわけです。

このようにして市民の森建設運動は、個人、法人、奉仕団体、また福岡市出身の在京者など、善意の輪は市外にまで広がりました。総額5,700万円にのぼる寄付によって、キャンプ場、水の森、こだまの森、夫婦石および中央展望台、つり橋、草スキー場、自然教室などの施設が次々と着工され、サクラ

やレンギョウ、世界の樹木など2万本をこえる花木も植樹されました。

建設途中の昭和43年4月12日には、皇太子ご夫妻が夫婦石展望台にお立ちになり「立派に成長した市民の森を再び訪れてみたい」と感銘深いお言葉を賜りました。

市民の善意と協力により昭和44年12月には各施設が完成、市民の森は運動本部から市に寄贈され、市民の森運動本部は事業を終り解散しました。かわって昭和45年10月に市民各界各層による市民の森協会（初代会長・赤羽善治氏、現会長・山下敏明氏）が設立

され、入山者へのサービスを開始しました。

市は昭和44年4月に管理事務所をおいて入山者の安全と、森林の管理につとめています。さらに昭和45年から3ヵ年計画で市民の森の南側に国有林28.8ヘクタールを借り受け、乳牛の子牛を育てる油山牧場が完成しました。

その後も樹木の植栽や施設整備を行い内容を充実するとともに、昭和59年4月からは福岡市森林公社が管理業務を行い、入山者へのサービスの向上に努めています。

また、昭和59年度からは自然観察

の森の整備に着手し、昭和63年4月にオープンしました。現在、森林浴コースの整備を行っております。

このようにして、20年の年月を経過しましたが、当初総面積72ヘクタールであった市民の森は、油山牧場、自然観察の森を含め、現在126.2ヘクタールに拡充、建設時から植栽されてきた樹木も大きく成長し、自然木とあわせ約10万本に達しております。

今日では、四季を通じて変化する色彩を求めてのハイキング、自然にふれあいながら楽しむレクリエーションの場として多くの市民に親しまれています。



花木園（建設当時）



記念植樹（楠）



夫婦石展望台



市民の森から市街地を望む



自然教室



水の森



花木園（現在）

● 自然

1. 地形地質

油山山系は市の西南に位置し、山頂は標高597にあり、地質は花崗岩質で、概して堅固ですが、急峻な地形が多く、林地は崩壊しやすいところもあります。平野部に突出した形の油山からの眺望は、東から南にかけて立花山、三日月山、若杉山、三郡山、宝満山、四王寺山、背振山の山並みが一望され、その遠くには英彦山も眺望できます。また、北部は市街地をとおして能古島、志賀島をはじめ、玄界島、小呂島、晴れた日には遠く玄界灘をへだてて壱岐の島も眺望できます。



市街地から見た油山

2. 主な動物

1) 鳥類

- 留鳥 ヤマガラ、アオゲラ、シジュウカラ、ウグイス
- 渡り鳥 オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、ジョウビタキ、サシバ、ツグミ、カシラダカ、ミヤマホオジロ

2) 昆虫類

- カブトムシ、ノコギリクワガタ、ナツアカネ、ミヤマカワトンボ、

オニヤンマ、ツマグロヒョウモン
オオオサムシ

3) 哺乳類

ホンドタヌキ、ニホンイノシシ、
キュウシュウノウサギ、ニホンザル

4) 両生類・ハ虫類

トカゲ、カナヘビ、タゴガエル、
ブチサンショウオ



ノコギリクワガタ



ナツアカネ



ツマグロヒョウモン



キビタキ



上：ヤマガラ 下：アオゲラ

3. 主な植物

1) 高木類

アカマツ、ヒノキ、タブノキ、
スギ、クスノキ、サトザクラ、
コナラ、アメリカフウ、エノキ、
コシアブラ、ウリハダカエデ、
キンモクセイ、クマノミズキ、
ハリギリ、シロダモ、ヤマモモ、
ヤブツバキ、ホオノキ、シラカシ

2) 中高木類

ゴズズイ、クラノキ、ヌルデ、
ヤマウルシ、クサギ、ネジキ、
カナクギノキ、カカメガシワ、
ニワトコ、リンボク、エゴノキ、
ネズミモチ、クロキ、ソヨゴ、
ヤマボウシ、リョウブ

3) 低木類

ヤマハギ、イヌツゲ、ヒサカキ、
シャシャンボ、ムラサキシキブ、
イヌザンショウ、レンギョウ、
ヤブコウジ、ツツジ、アケビ

4) シダ類

ハコネシダ、イヌシダ、コシダ、
クリハラン、ウラジロ、ホラシ
ノブ



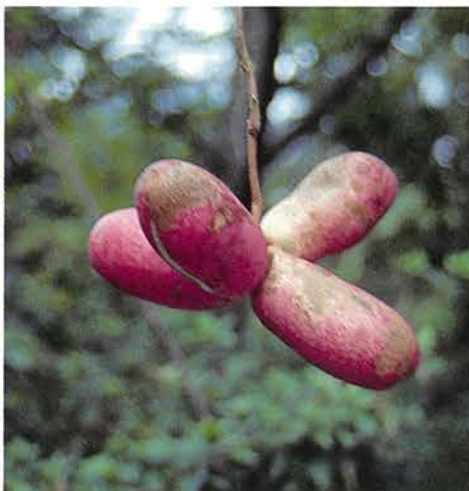
キンモクセイ



モミジ



ツツジ



アケビ

● 歴史

油山の歴史は古く、山麓部の西油山、梅林、片江にかけては、多くの古墳群が発見され付近から弥生式土器も多数出土しています。

油山の名の由来は、聖武天皇(在位724~749)のころ、西域からの渡来僧清賀上人が開山されたとき、灯油用にツバキの実から油をとったのが起源といわれています。清賀上人は、ツバキで千手観音を刻み、東西油山に大小720余の伽藍を建立し、油山は豊前求菩提山と肩を並べるほどの一大法域として栄えました。鎌倉時代には、浄土宗の開祖法然上人の高弟であった鎮西上人が比叡山で修行後、建久2年、30歳の若さで油山学頭としてお

もむき、仏教の布教に努めた時代もありました。しかし南北朝時代に肥前の少武頼尚と肥後の菊池武光の両軍が油山で戦い、次いで戦国時代の天正7年、豊後の大友宗麟の部将、小田部紹叱が早良重留の山頂、荒平城にたてこもり、肥前の竜造寺隆信の軍と戦うなど、再度の戦いで720余りの伽藍は失われてしまいました。元禄7年になって、やっと東油山の中腹に正覚寺が再建され、明治39年、同寺の御本尊聖観音像が、国の重要文化財となりました。

西油山には、日蓮宗妙見山徳栄寺があります。同寺は昭和初期、当時の炭鉱王中島徳松の建立により開山、現在、境内

を「田隈公園」として市民に開放し、サクラの名所となっています。
(資料・正覚寺縁起ほか)



正覚寺山門

施設の概要

● 市民の森 (70.7ヘクタール)

自然と緑のレクリエーションの場、森林浴による保健休養の場、林業の啓蒙普及の場として利用されています。

1. 主な施設



①夫婦石展望台(高さ8m、市街地、博多湾、志賀島が展望) ②キャンプ場(炊飯所、テント、バンガロー)
③草スキー場(57メートルコース、100メートルコース) ●つり橋(高さ30m、長さ52m、幅2m) ●平成の滝
●中央展望台(高さ10m、市街地、博多湾、志賀島が展望) ●アスレチック(8基)

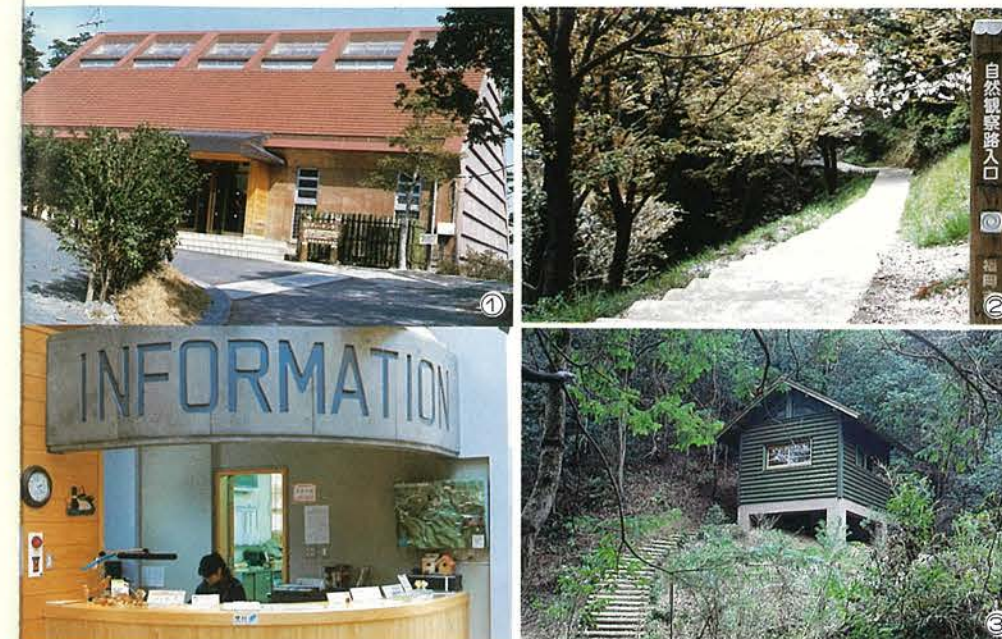
2. 主な樹木園



①世界の樹木園(世界原産木46種、約3,000本) ②四季の園 ③県木の森(47都道府県の樹木) ④もみじ谷
⑤香りの散策路(7種、約1,000本) ⑥花木園 ●梅園 ●ホルトの森(ホルトノキ約2,000本)

● 自然観察の森 (23ヘクタール)

自然環境の中で昆虫、野鳥等の小動物や、植物とふれあいながら観察できます。



主な施設

- ①自然観察センター
鉄筋コンクリート2階建(延面積420㎡) 1階は、講義室、研究資料室、ボランティアルーム、2階は、展示室、管理室、インフォメーション
- ②自然観察路(幅員1.5m 延長4,200m)
- ③観察小屋(3棟)
●中央広場(1,800㎡)
●誘致林(タブノキ等10種 約2,000本)

● 油山牧場 (32.5ヘクタール)

市内酪農家から預った乳牛の子牛が立派な母牛となるよう常時約60頭が放牧されています。

主な施設

- 家畜避難舎 ●看視舎
- サイロ ●放牧地、採草地



● 油山16景と森林浴 (ハイキング) コース

油山は名所、古蹟を探勝するには格好の山で、油山16景として知られ、史蹟や景勝地が多く、森林浴(ハイキング)コースも整備されています。

油山16景

六地藏、坊住跡、鎮西国師学寮跡、新羅式石門、光ガ滝、油谷、浩然谷、妙見岩、国見岩、姫ガ淵、夫婦石、山笠岩、白浪ノ滝、天狗岩、道德坊跡、夫婦滝

現在の森林浴(ハイキング)コースは油山16景をおりこみ山頂までのコースがあります。

- (1) 油山バス停—青年の家—管理センター—つり橋—山頂
- (2) 油山バス停—油山観音—片江展望台—妙見鼻—妙見岩—山頂
- (3) 妙見口バス停—徳永寺—妙見鼻—妙見岩—山頂
- (4) 駄ヶ原バス停—夫婦石浄水場—中央展望台—国見岩—山頂
- (5) 西山田—自然観察の森—キャンプ場—山笠の岩—山頂

※その他、油山市民の森を中心とした公認オリエンテーリングコースが3コースあり、春、秋には大会を実施しています。

市民の森のあゆみ

● 年 表

年 度	月	市民の森のあゆみ	国内外の主なできごと
40 (1965)	3	黒の原林道完成、延長3,192メートル。	朝永振一郎氏ノーベル賞受賞 (40年10月)
42 (1967)	1	阿部市長、「油山総合開発」の基本構想を発表。	
	3	東油山林道完成。延長642メートル。	
	8	福岡明治百年記念委員会設置。	
	10	「市民の森運動本部」スタート。	ソ連「金星4号」軟着陸に成功 (42年10月)
	11	市民の森運動本部発足記念植樹祭。	
	12	世界の樹木園完成。	
43 (1968)	4	皇太子殿下ご夫妻、夫婦石展望台にご来臨。 春の市民植樹祭開催。市民約1,500人が参加。 ミス市民の森発表。市民の森シンボルマーク発表。 (応募作より選定)	小笠原諸島返還 (43年6月)
	7	高松宮ご夫妻ご来訪。楠を記念植樹される。	
	8	オー克蘭ド市のYMCA一行、ホルトノキを記念植樹。	川端康成氏ノーベル賞受賞 (43年10月)
	12	油山市民の森基本計画書作成。基本理念を「自然のままの自然」「人間性の回復」「林業の啓蒙普及」「徒歩利用の原則」とする。	
44 (1969)	3	芝生と岩の広場(草スキー場)、こだまの森、夫婦石展望台、キャンプ場完成。	
	4	「油山市民の森条例」制定。「市民の森管理事務所」を設置。 春の市民植樹祭開催。夫婦石展望台除幕式、花木園での記念植樹。	アポロ11号、月面着陸。人類最初の月面踏査 (44年7月)
	8	つり橋完成。南区竹内光行氏ご夫妻が運動本部を通じて寄贈。	
	10	中央展望台完成。	
	12	市民の森献納式ならびに「市民の森運動本部」解散式。	人工衛星「おおすみ」打ち上げ成功 (45年2月)
45 (1970)	3	桜河内林道完成。延長1,438メートル。	万国博開幕 (45年3月)
	4	常陸宮ご夫妻ご来訪。タイサンボクを記念植樹される。 銀杏休憩所完成。博多織元卸商業組合の寄贈。	
	7	キャンプ場一般開放する。	
	10	「市民の森協会」発足。	
46 (1971)	3	油山青少年自然教室完成。福岡市観光協会が建設。	
	9	市民の森を中心にした油山オリエンテーリング公認コース開設。	中国国連加盟 (46年11月) 札幌オリンピック開催
47 (1972)	11	福岡市政令指定都市発足記念植樹祭。	(47年2月)
			沖縄祖国復帰 (47年5月)
48 (1973)	3	福岡市政令指定都市発足記念として、西区老人クラブ連合会がナノミ、南天など実のなる木を記念植樹。	
	4	油山牧場開場式。(総面積32.5ヘクタール)。	
	12	桜河内林道と牧場を結ぶ散策道完成。延長1,300メートル。	
50 (1975)	3	楠の森造成、テレビ西日本から楠200本寄贈。	新幹線博多乗り入れ (50年3月)
	4	椿の森造成、市民の森協会事業として、椿250本の市民記念植樹。	
	6	日時計設置。福岡県貴金属眼鏡商業協同組合から寄贈。	

年 度	月	市民の森のあゆみ	国内外の主なできごと
51 (1976)	3	梅園造成。市民の森協会5周年記念事業として、梅210本の市民記念植樹。	
	6	ホルトの森造成。福岡ライオンズクラブ創立20周年記念事業としてホルトノキ2,000本寄贈。	
52 (1977)	4	四季の園造成。国際ソロプチミスト福岡から花木など900本寄贈。	
	10	太陽電池時計設置。九州郵政局の手によるもの。	
53 (1978)	5	新しいつり橋が開通。 新オリエンテーリング公認コース開設。	新東京国際空港開港 (53年5月)
	11	市民の森10周年記念式典並びに記念植樹祭を開催、10周年記念事業として世界の樹木園造成。世界の代表的な樹木46樹種3,000本の市民記念植樹。	日中平和友好条約締結 (53年8月)
56 (1981)	5	身障者用日帰りキャンプ場施設完成。飯田産業グループから寄贈。	神戸「ポートピア'81」開幕 (56年3月)
	7	市民の森有料駐車場(中央)利用開始。	福岡市地下鉄開通(一部) (56年7月)
58 (1983)	6	「四季の園碑」完成。国際ソロプチミスト福岡から寄贈。 「県木の森」完成。47都道府県の県木、樹種21種類550本植樹、面積1ヘクタール。	
59 (1984)	4	組織変更により、財団法人福岡市森林公社市民の森管理事務所として市民の森の維持管理にあたる。	
	6	市民の森開設15周年記念として九州朝日放送から水の森に便益施設(野外卓、ベンチ)寄贈。	
	12	市民の森開設15周年記念式典並びに「もみじ谷」2ヘクタール造成。記念植樹としてもみじ8種類1,000本、記念碑を市民の森協会より寄贈。	科学万博(つくば博)開催 (60年3月)
61 (1986)	4	「もみじ園」造成、もみじ320本植樹、福岡県緑化推進委員会福岡支部から寄贈。 市民の森有料駐車場(入口)利用開始。 森林浴コース事業着手、平成2年度完成予定。コース8,000メートル便益施設整備。	
63 (1988)	4	「自然観察の森」オープン。面積23ヘクタール、自然観察センター、自然観察路、誘致林、観察小屋設置。 市民の森協会が市民の森20周年記念事業として記念植樹募金活動を開始。	福岡市地下鉄開通(貝塚) (61年11月)
平成元年 (1989)	3	「香りの散策路」完成、散策路延長2,500メートル樹種7種類1,000本。 市民の森20周年記念事業として、平成の滝、休憩所建設。	青函トンネル開通 (63年3月)
	4	市民の森20周年記念式典並びに記念植樹祭を開催、20周年記念事業として「つばきの森」植樹園造成、つばき1,400本市民記念植樹及びアスレチック建設。	瀬戸大橋開通 (63年4月)
	6		アジア太平洋博覧会開催(よかとぴア) (平成元年3月)
			福岡市制100周年 (平成元年6月)

